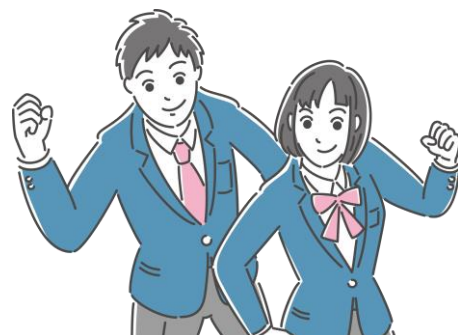


令和6年度
高校生×ジェンダー
平等ワークショップ

報告書



はじめに

福岡県男女共同参画センター「あすばる」では今年6月から、若者のジェンダー平等への理解を促進するため、県内の高校生の皆さんがジェンダー平等について考える全4回のワークショップを開催しました。

ワークショップでは県内から集まった33人の高校生が6つのグループに分かれて、自分たちでテーマを設定し、県内高校生へのアンケート調査や社会人へのインタビュー調査などのグループワークを行いました。

「ジェンダー平等」は社会のあらゆる場面に関わるテーマであり、ワークショップで学んだ内容については、毎年11月の第4土曜日「福岡県男女共同参画の日」に開催している「福岡県ジェンダー平等フォーラム」の成果報告会の場で発表しました。

本報告書は、こうした学びを踏まえて取りまとめたものです。

本ワークショップの実施にあたり、ご助言、ご協力を賜りました多くの皆様に心から感謝いたします。

福岡県男女共同参画センター「あすばる」
令和6年12月

目次

グループワークの概要	3
参加高校生一覧	8
各グループ発表資料	
A1 グループ	11
A2 グループ	17
B1 グループ	23
B2 グループ	27
C1 グループ	31
C2 グループ	35
参加高校生の感想	40
アドバイザーの先生から	43
番外編	
福岡女子大学 あすばる体験学習生から	44
成果報告会の様子	46

高校生×ジェンダー平等ワークショップ

1. 目的

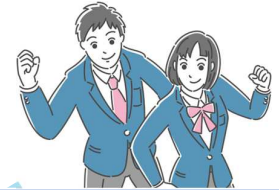
高校生の皆さんに、ワークショップでの活動を通して、誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目指してジェンダー平等への理解を深めていただき、その成果を「福岡県ジェンダー平等フォーラム」で、同世代の若者や社会に向けて発信する。

2.開催期間 6月～11月

3.参加者 33名

4.ワークの内容

(1)カリキュラム



日時	会場	内容
第1回 6/29(土)	13:00 ~ 16:00 クローバープラザ	○オリエンテーション ○ミニ講義「ジェンダー平等、アンケート基礎」 ○アイスブレイク、チーム内でテーマ決め、検討スケジュール決め
第2回 7/6(土)、7(日)	13:00 ~ 16:00 クローバープラザ	○アンケート案完成 ○インタビュー先の選定 ※A、Cチーム:7/6、Bチーム:7/7
第3回 8/24(土)	13:00 ~ 16:00 クローバープラザ	○アンケートの分析 ○社会人インタビュー先の検討
第4回 11/9(土)	13:00 ~ 16:00 クローバープラザ	○課題や求められる施策の整理 ○プレゼン資料のとりまとめ ○フォーラム当日の役割分担(発表者等)
成果報告会 11/23(土)	13:40 ~ 14:10 クローバープラザ	○大ホールにてプレゼン(成果発表) ○1Fロビーにて活動展

- ワークの検討材料として、県内の高校生の考えを知るために質問項目を考案し、WEBアンケートを実施
- 各テーマの話し合いから出た疑問点に対するヒントを得るため、様々な職業や現況の方に対し、Zoomインタビューを実施

(2)チーム編成

- Aチーム11名、Bチーム11名、Cチーム11名（各チーム2つのグループで活動）
※各チームの活動をサポートするため大学の先生3名をアドバイザーとして配置

(3)検討テーマ

グループ	検討テーマ	テーマを決めた理由
A1	性の多様性を尊重する社会	多様な性との関わり方や、男女別に定められている校則などへの問題意識や疑問
A2	固定的な性別役割分担意識	私たちの身の回りにある「男だから」「女だから」という無意識の思い込みや偏見への問題意識や疑問
B1	進路進学とジェンダーの関係	理系・文系選択において、男女比があること（理系を選択する女子が少ない）への関心
B2	ストレスとジェンダー	統計資料では女性よりも男性の自殺者が多いことから、その原因となるストレスや男女差に関心
C1	高校生の進路とジェンダーバイアス	理系・文系選択において、影響を与えているジェンダーバイアス※に関心 ※男女の役割について固定的な観念を持つこと
C2	職業とジェンダー問題（男女平等に働いているの?）	職場における男性の育児休業取得率と、職場の男女比率の関連について関心

ワークショップの様子



筑紫女学園大学 飯島先生「ジェンダー平等ミニ講義」



アイスブレイク



ライブラリで調査



九州産業大学 山下先生「アンケートづくりの基礎知識」



Aチーム



Bチーム



Cチーム



WEBアンケート

～福岡県内の高校生対象に実施～

メンバーが自校でのチラシ掲示や配布、友人等へ口コミやSNSにより周知

⇒ **1,342** 人から回答

福岡県 高校生のみなさんの声を聴かせてください!

SUST
DEVE
GO

高校生×ジェンダー平等 ワークショップ



WEBアンケート ご協力をお願い

回答受付期間

7/16 (火)

8/2 (金)

アンケート項目づくり

- ミニ講義
 - ・ジェンダー平等
 - ・アンケートづくりの基礎知識
- あすばるライブラリでの調査
- グループ内での討論

進路選択と
ジェンダー



家庭や学校と
ジェンダー

LGBT

ストレスや
悩み事

アンケートはこちらから



所要時間: 5分程度

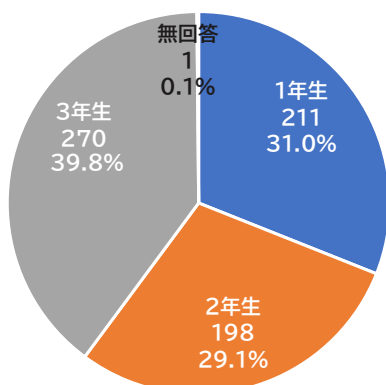


アンケート項目を決定

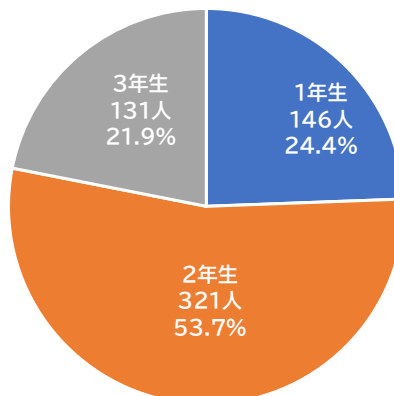
WEBアンケート項目

- あなたの持つ文系・理系のイメージや進路選択について
- 家庭や学校でのあなたの経験や考えについて
- LGBTなど性的マイノリティーに関するあなたの考えについて
- あなたのストレスや悩みごとについて

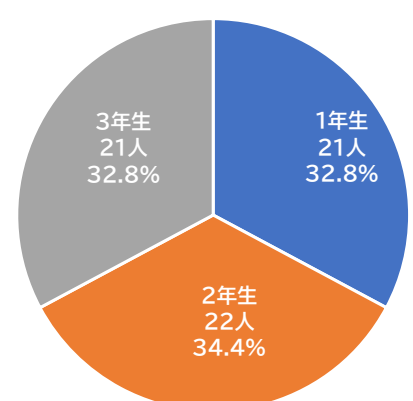
【男性(680人)】



【女性(598人)】



【その他(64人)】



・1,342件の回答

・その他=どちらともいえない、回答しない、無回答

社会人インタビュー



職場における男女の差などについて実際に社会人にZoomインタビューを実施。質問項目もメンバーが考察。

- インタビュー先
LGBTQ当事者、女性議員、育児中の男性教諭、女性医師、理系教科の女性教諭、育休を取得した男性教諭、女性が多い職業（看護師）、男性が多い職業（ゼネコン技術者）
- 実施期間
9月～10月（各30分～1時間程度）

Aチーム

女性議員

Q.議員の中では若く、また女性だから苦勞していることについて
「女性だから、若いから、とバイアスを掛けられる」



篠栗町 町議
 崎山佐穂さん

LGBTQ当事者

Q.カミングアウトしやすい人について

**「個人の価値観を押し付けて来ない人、
 アウティングをしなさそうな信頼できる人」**



コンテンツディレクター
 雨谷里奈さん

育児中の男性教諭

Q.家事の分担についての位置づけ
「仕事の位置づけを夫婦でよく話し合った上で、家事分担を決めた」



明治学園中学高等学校 数学教諭
 白濱勝平さん

Bチーム



女性医師

Q.医師を選んだ理由

「働く女性にずっと憧れていた。
子どもの時から理系科目が好きだった
こともあり、やりがいがある仕事として
医師を選んだ」

九州大学病院 産婦人科 医師
河村圭子さん



理系教科の女性教諭

Q.進路として理系を選択した理由

「幼少時より自然科学系に関心があり、
文系科目よりも理系科目の方が得意だった」

北九州市立田原中学校 理科教諭
村井佑有さん



Cチーム

育休を取得した男性教諭

Q.男性の育休取得について

「ぜひ、取得すべき。
育休を取得したからこそ
育児の大変さが分かった」

福岡県立中間高校 保健体育教諭
大江秀和さん



女性が多い職業（看護師）

Q.女性が多い職業における男性の働きにくさについて

「男性や女性では考え方が異なることがあり、
お互い言葉にすることが大事」

Q.男女による業務（役割）の違いについて

「例えば、思春期の患者さんには同性の看護師を
配置するなど病棟では工夫がなされている」

(医)十全会おおりん病院 看護師

小園悠斗さん
中村睦実さん



男性が多い職業（ゼネコン技術者）

Q.ライフイベントに応じた休暇取得などの男女差について

「入社当初は男性は仕事、女性は専業主婦が当たり前
な感じがあったが、ここ4、5年で会社も世の中の
考えも変わり、今は男女差はないと思う」

Q.男性が多い職場における女性の働きにくさについて

「現場の技術者で結婚・出産したのは自分
が先駆け。上司と相談しながら働きやすい
環境を整えながら働いている」

鹿島建設（株）九州支店 技術職

安居裕之さん、美耶子さん（夫妻）



6/29(土)にワークショップスタート!



(6/29 第1回ワークショップ)

【アドバイザー】
九州産業大学 山下 永子 教授 (地域共創学部 地域づくり学科)
福岡女子大学 野依 智子 教授 (国際文理学部 国際教養学科)
筑紫女学園大学 飯島 絵理 准教授 (現代社会学部 現代社会学科)

Aチームメンバー



(6/29 第1回ワークショップ)

Bチームメンバー



(6/29 第1回ワークショップ)

Cチームメンバー



(6/29 第1回ワークショップ)

チーム

A-1

テーマ

性の多様性を 尊重する 社会



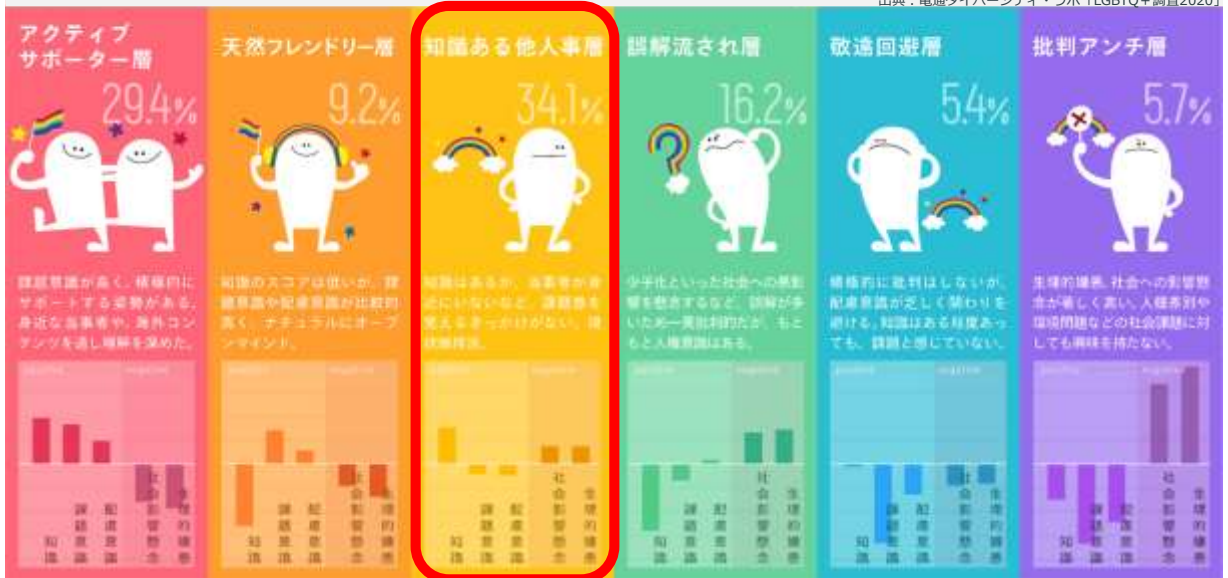
問題意識と疑問

- ・ 異性愛だけだと思い、同性愛への理解が足りていない
- ・ パートナーシップ制度はあっても、法的な結婚はできない
- ・ LGBTQ当事者の方との接し方

現状・課題

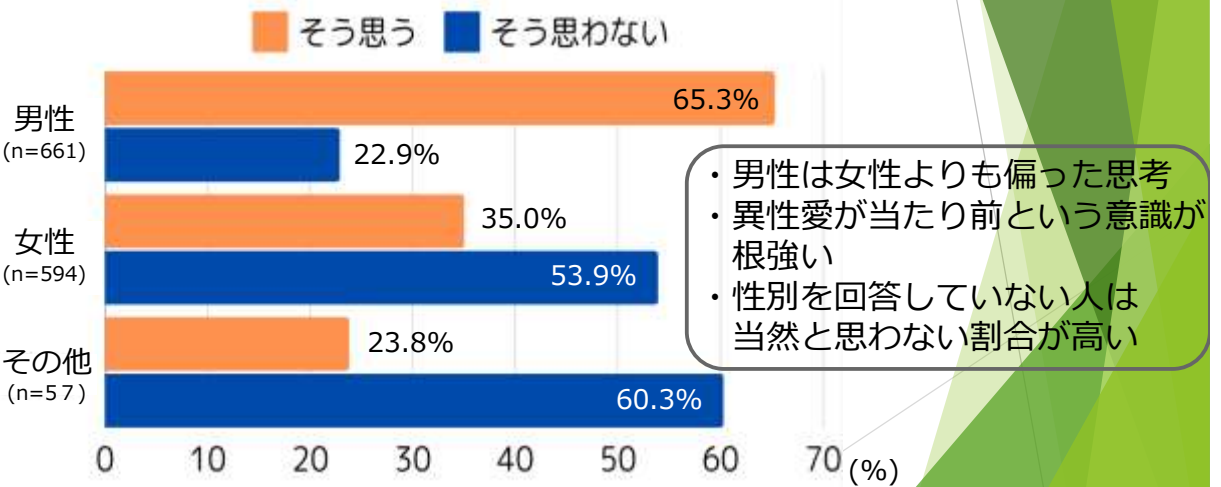
「知識ある他人事層」が多い
 「アクティブサポーター層」は、人とのつながりを大切にしている

出典：電通ダイバーシティ・ラボ「LGBTQ+調査2020」



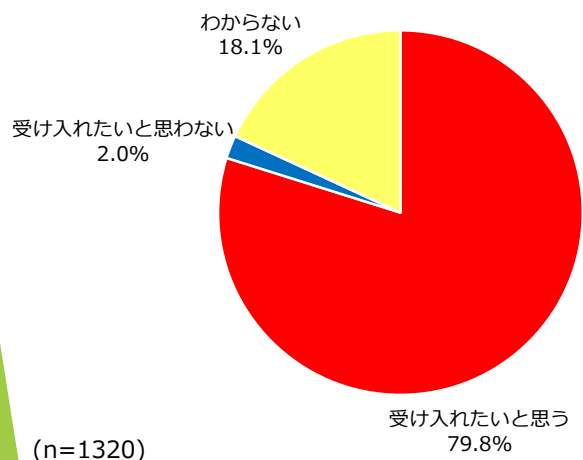
高校生アンケート結果

Q. 「異性に恋をするのは当然だ」と思いますか？



高校生アンケート結果

Q.カミングアウトされたら受け入れたいと思いますか？



受け入れたいと思う人が
大多数を占めている！

社会人インタビュー

1. 選定条件
レズビアン当事者の方
2. 対象者と調査日時

雨谷里奈さん	
調査日時	(R6.9.14.13時~)
職業	コンテンツディレクター
年齢	30代
勤務年数	2年目



インタビュー結果

①言われて傷ついたこと

→雨谷さん自身は嫌な反応をされたことがない
しかし、疑問を持たれたり、否定的な反応をされると傷つく

①'言われて嬉しかったこと

→受け入れてもらえること
+カミングアウトしたことで嘘をついている感じがなくなった

インタビュー結果

②どんな人ならカミングアウトできる

→・彼氏がいることや
結婚することを前提にしていない人
・アウティングしない人

自分がセクシュアルマイノリティであることを他人に打ち明けること

人の性の在り方を他者に
言いふらすこと

③身内にカミングアウトした時の反応

→最初は戸惑いを見せたが、『あなたの幸せがパパの幸せ』
と言ってくれた
雨谷さんは『言ってよかった』と思えた

インタビュー結果

④LGBTQとくくられることに関してどう思うか

良い点：自分の仲間がそこにいるという安心感があり、仲間意識が芽生える
気になる点：違和感があり、「LGBTQの当事者」が社会の中で特殊だと感じられる

どのような場面で使うかが大事！

⑤法律について気になること

- 男女間で認められているサービスを自分達も受けられるようにしてほしい
- ・パートナーシップ制度では、結婚と同等の権利が得られない
- ・子供は産めるが行政や医療機関にアクセスしにくい

考察・まとめ

- ・LGBTQの方に対するインクルージョン意識が高い人が多い
 - ・私たち自身がALLY（アライ）となって考え方を示していく
- ネットニュースやテレビ、SNSなどでLGBTQについてさらに取り上げられるようになり、理解してくれる人が増える

ALLYとは…

LGBTQ当事者に共感し、寄り添いたいと考え支援する人のこと。
同性愛に対する嫌悪や偏見を持つ価値観などの解消を促す活動を行っている。

提言

私たちは

『誰もが自分らしく生活できる社会』

にしたい！



- ・友達とオープンな会話をする
 - ・活動に積極的に参加してジェンダー平等に関する学びを深める
- ⇒日常的にこれらを行うことによってジェンダー平等を実現させる！

チーム

A-2

テーマ

固定的な性別役割 分担意識



問題意識・疑問

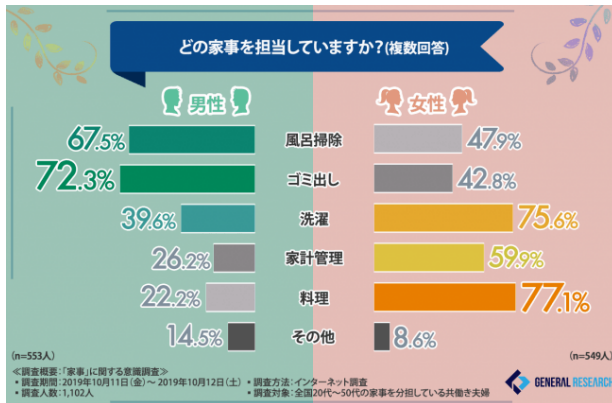
- ・ 共働きであっても、家事は女性中心
- ・ 「女なんだから」「男なんだから」という言葉を使っている人がいる
- ・ 将来のため、男の子には勉強を頑張ってもらいたい、女の子はそこそこでいい
- ・ 男性が奢ってくれるのは当たり前

私たちの身の
周りにある固
定的性別役割
分担意識

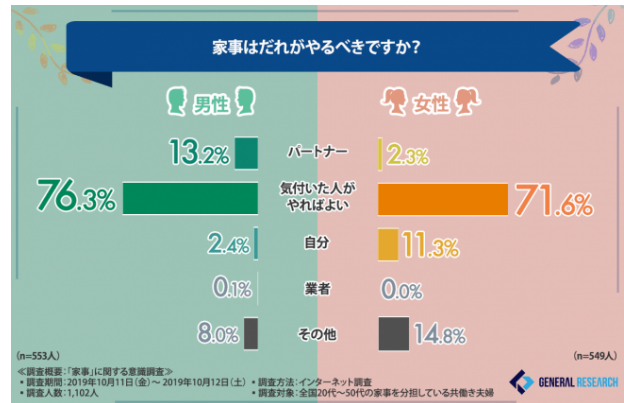


現状・課題

料理や洗濯など、時間のかかるものは女性の割合が高い



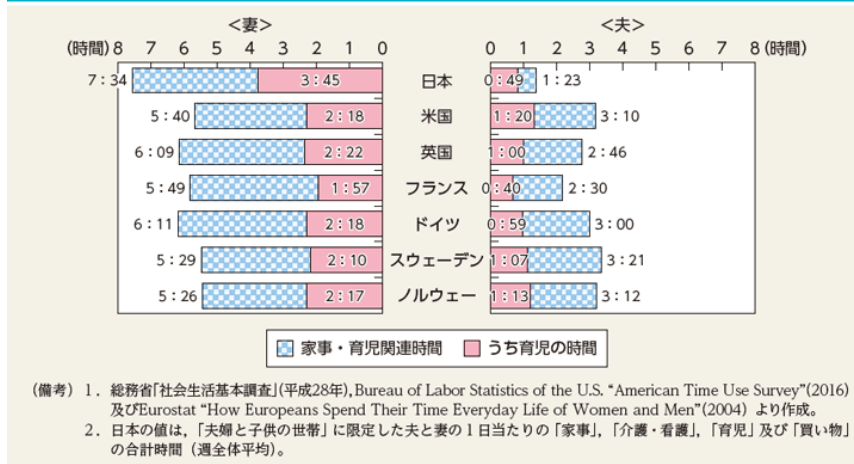
気付いた人がやればよいと思っている人が多い



出典：ゼネラルリサーチ株式会社「『家事』に関する意識調査」2019年

現状・課題

1-3-8図 6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連時間（1日当たり、国際比較）



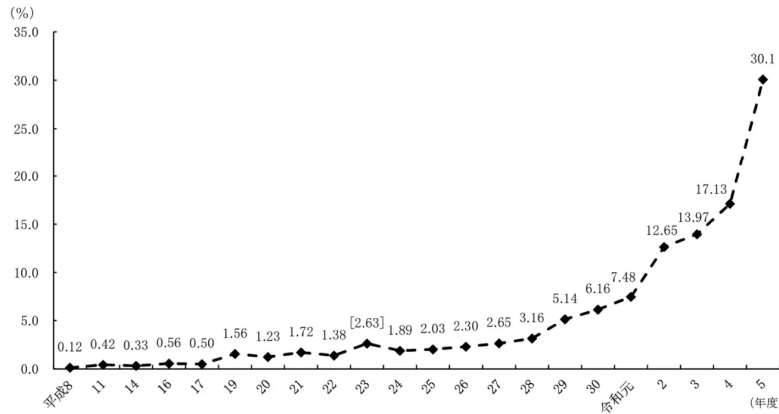
他の国と比べると日本は、男性よりも女性の育児時間が圧倒的に長い

出典：内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書 平成30年版』

現状・課題

育休取得率

(男性)



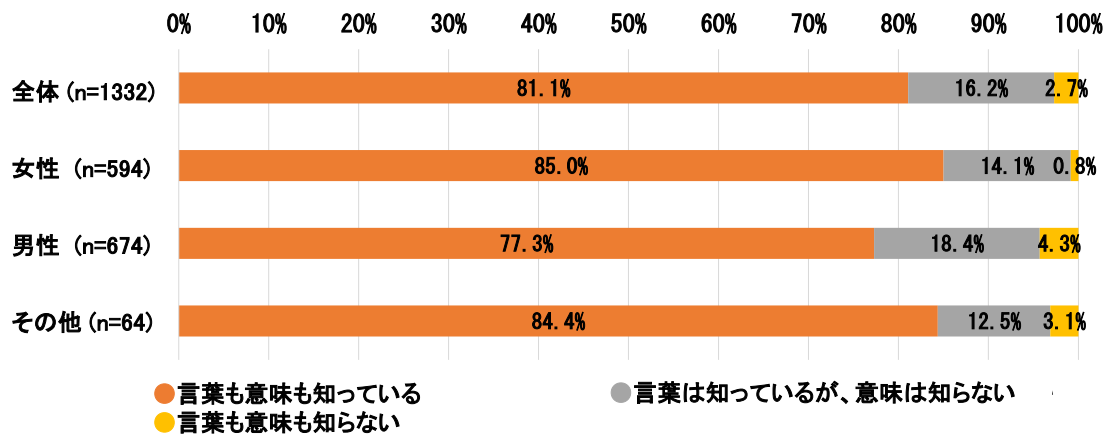
男性の育休取得率は約30%、
上昇傾向にあるものの、
女性に比べ低い水準(女性
の育休取得率は約85%)

出典：厚生労働省 「令和5年度雇用均等基本調査」

高校生アンケート

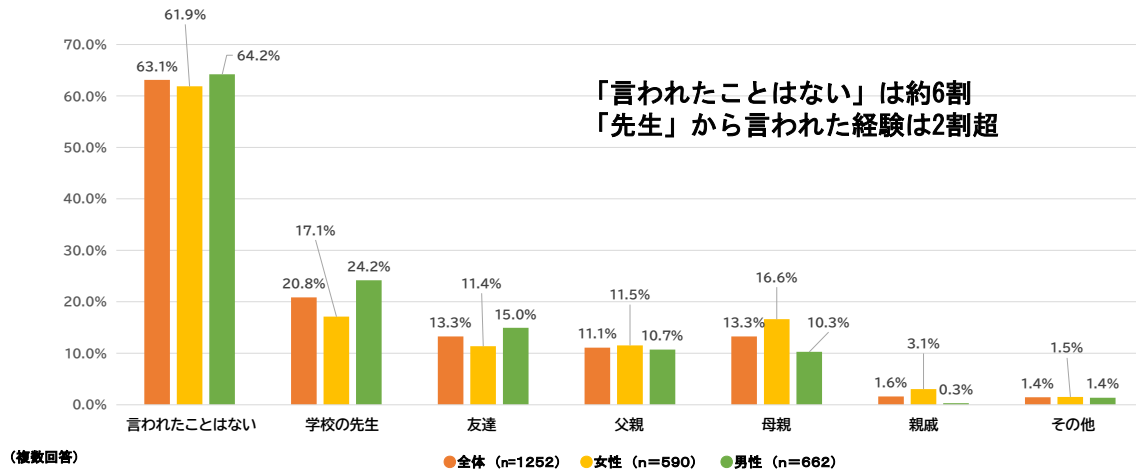
Q1, ジェンダーという言葉を知っていますか？

8割以上が「ジェンダー」という言葉も意味も知っている」と回答しており、興味関心の高さがうかがえる



高校生アンケート

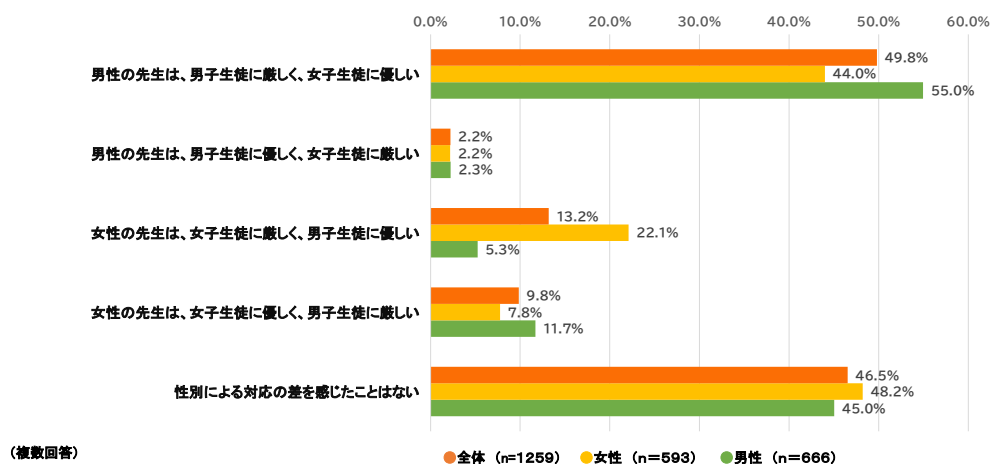
Q2, 性別によって「男子だから」「女子だから」など、不平等だと思うことを誰かに言われた経験はありますか？



高校生アンケート

Q3, 学校の先生の生徒への対応が、性別によって差があると感じたことはありますか？

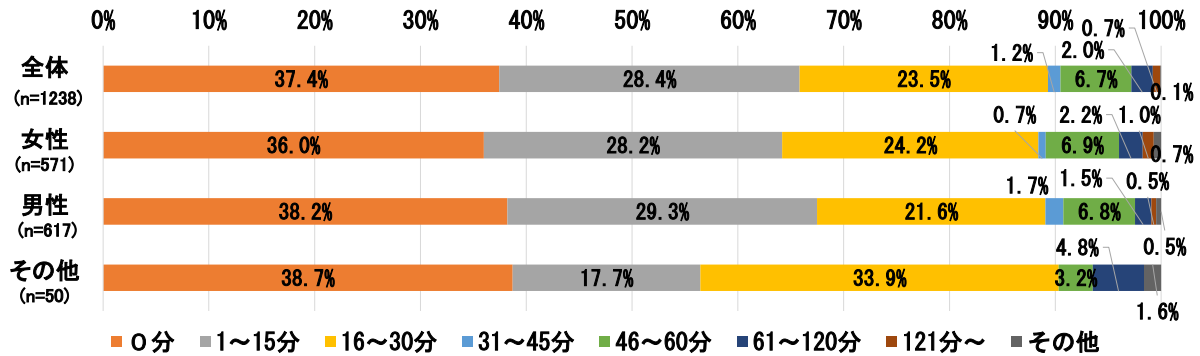
「男性の先生は男子生徒に厳しく、女子生徒に優しい」と感じる人の割合は約半数。
→女子は「期待されていない」と感じてしまう可能性がある。



高校生アンケート

Q4, 一日に平均何分くらい家事や家族の世話・介護(手伝いを含む)をしますか？

今回の調査では、男女差はあまり見られなかった



社会人インタビュー

	①白濱勝平さん	②崎山佐穂さん
調査日時	(R6. 9. 11. 17時30分~)	(R6. 9. 11. 18時30分~)
職業	明治学園中学高等学校 数学教諭	篠栗町 町議
年齢	30代	30代
勤務年数	15年目	2年目

育児中の男性教諭

- ・生徒に対しても、男女で不平等な対応をしないように注意している。
- ・自分の子どもとの時間を確保できるように部活を調整している。
- ・育休をとった男性教諭が一人いる。→皆で後押しし、先駆的存在になってもらった。

女性議員

- ・家事は夫と分担し、できる人がしている。
- ・気軽に女性議員について知ってもらえるセミナー等を開催している。
- ・女性議員の数を増やそうとすると逆差別だという人もいます。

考察・まとめ

現状と課題

今でも、性別が理由で不平等だと感じている人がいる
個人の能力が尊重されていない
男性は育休を取りづらい



学校や家庭、社会における固定的な性別役割分担意識

懸念

少子化がさらに進んでいく
固定観念の影響で、個人の選択肢が限定されてしまう

提言

私たちにできること

「男らしさ」「女らしさ」という固定観念にとらわれず

「一人の人間」として相手を尊重し、多様性を認める

友達と

「男女間に能力差はない」など、正しい知識を得る
友達と意見交換をする

学校で

男女で不必要な違いのある校則の改善を提案する

チーム

B-1

テーマ

進路進学と ジェンダー の関係



調査の背景と目的

【背景】

- 理系・文系選択は、私たちにとって身近な問題であるが、理系と文系で男女比があること（「女子枠」を設定するほど理系を選択する女子が少ないのか）に疑問を感じ、教育とジェンダーの関係に興味を持った

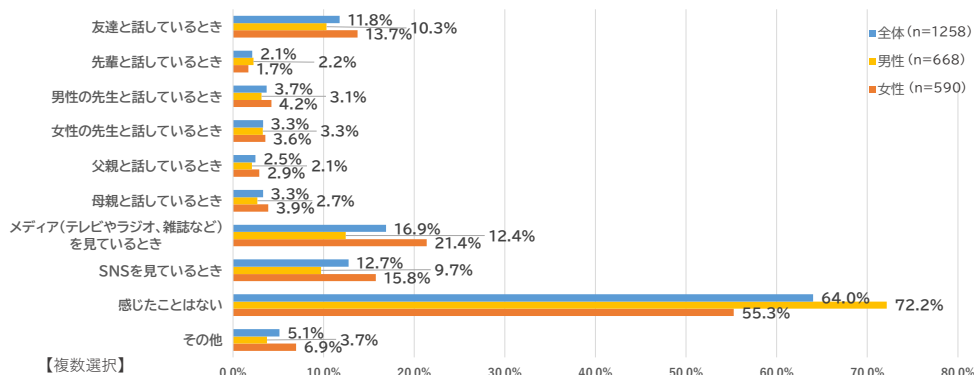
【目的】

- ①理系・文系を選択する際に、どれくらい将来の職業について考えたのか。また、それには男女差があるのか
- ②理系における「女子枠」の賛否に男女差があるのか

高校生アンケート

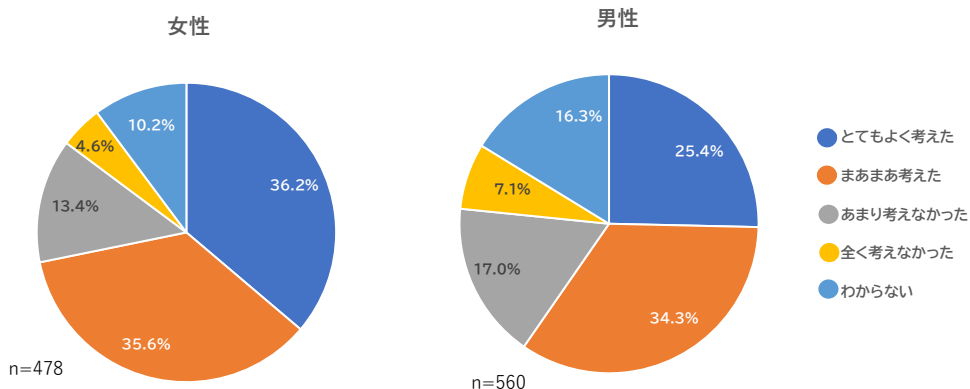
「男性は理系」「女性は文系」ってどんな時に感じる？

- 男性が「男性は理系」「女性は文系」と考えない割合が約7割なのに対し女性は約5割
- 先生が7.0%、友達で感じるのが11.8%
- 感じたことがないという人が64.0%と意外と多い
- メディアが16.9%、SNSが12.7%



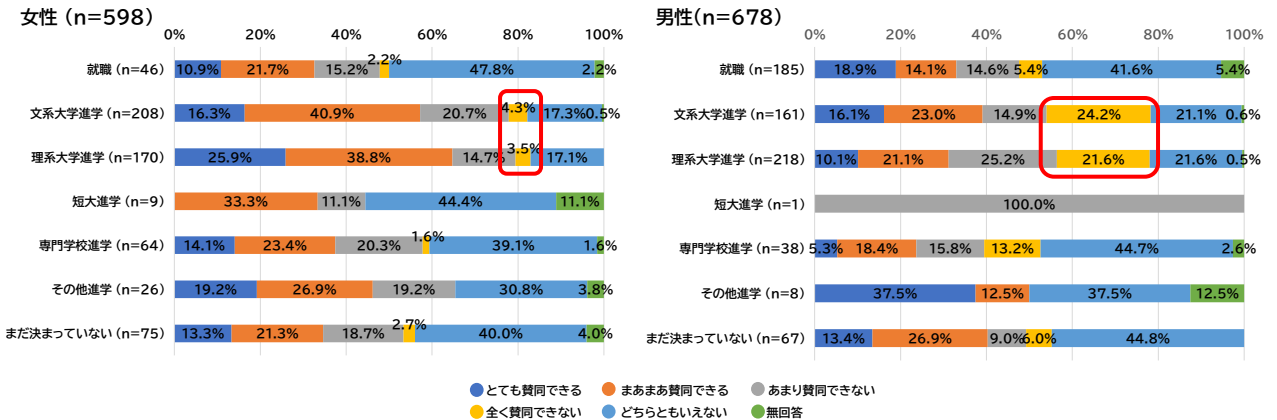
職業とのつながりを考えた？

- 「とてもよく考えた」「まあまあ考えた」あわせて、女性が71.8%、男性が59.7%で女性の方が高い
- 「とてもよく考えた」は、女性が36.2%、男性が25.4%で女性の方が男性より10%高い



女子枠についてどう思う？

- 「全く賛同できない」という回答は女性の場合、文系希望4.3%、理系希望3.5%なのに対して、男性の場合は、文系希望24.2%、理系希望21.6%と高い



社会人インタビュー調査の対象

1. 選定条件

- ① 女性医師（20～40代、子育て中）
- ② 理系教科の女性教諭（20～30代）

2. 対象者と調査日時

	①河村圭子さん		②村井佑有さん	
調査日時	(R6.9.17.17時～)		(R6.9.17.18時30分～)	
職業	九州大学病院 産婦人科 医師		北九州市立田原中学校 理科 教諭	
年齢	40代		30代	
勤務年数	17年目		5年目	

社会人インタビューから

2024年9月17日実施（オンライン）

〈女性医師 河村圭子さん〉

- 診療科によって、医師の男女数に偏りがある。産婦人科はあまり違いはないが、外科などは男性が多い
- 子育て中なので、夜勤はしていない。一方、夫も産婦人科医だが、働き方に変化はない

〈理系教科の女性教諭 村井佑有さん〉

- 職場での男女差を感じることはない
- これまでの勤務校で、男性で育休を取った人はいない

まとめと今後の課題

【まとめ】

- 若い世代で、触れることの多いメディアやSNSによってイメージがついていることがある
- 理系の「女子枠」については、女子よりも男子の方が「賛同できない」という回答率が高い
- インタビューから、男性教員は育休が取りにくいことがわかった

【今後の課題】

- 「男性は理系」「女性は文系」という考え方をどうやって変えていくか

チーム

B-2

テーマ

ストレスと ジェンダー



調査の背景と目的

【背景】

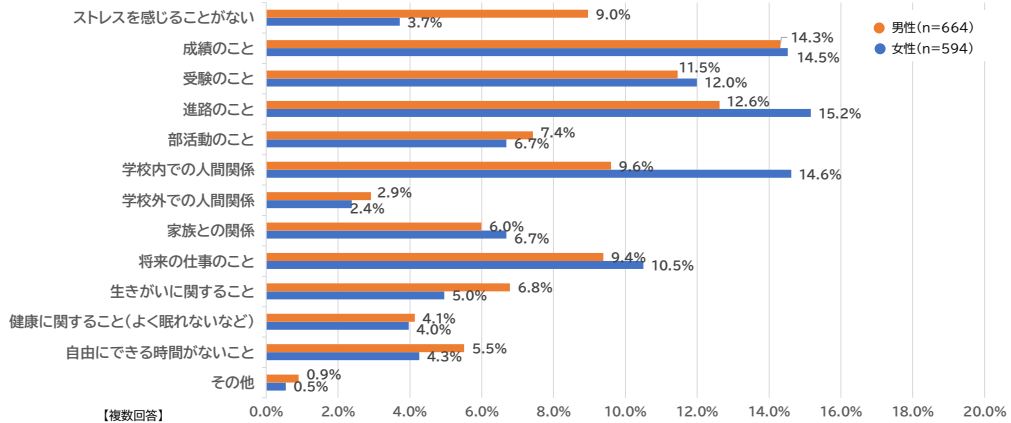
- 統計資料（「日本の女性と男性2023年」国立女性教育会館）では、女性よりも男性の自殺者が多く、その原因や男女差に関心を持った
- また、コロナ禍での自殺者の増加も気になった

【目的】

- ①どんな時にストレスを感じるのか。男女差はあるのか
- ②コロナ禍によって変化したことは何か

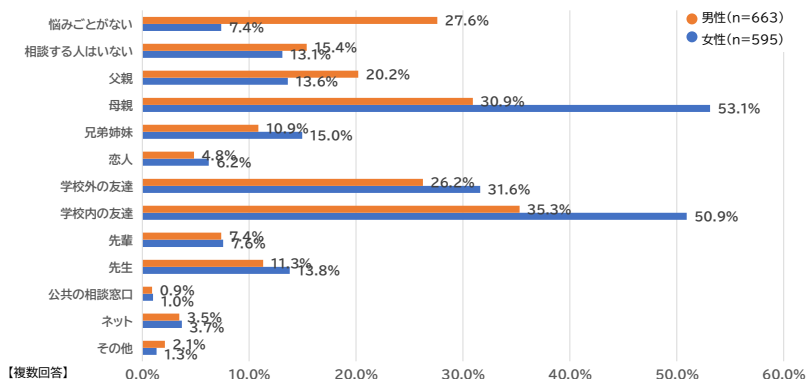
どんな時にストレスを感じる？

- 勉強について男女共にストレスを感じてる人が多い
- 「学校内での人間関係」については、女性が14.6%、男性が9.6%で女性の方が高い
- 「ストレスを感じることがない」は、男性が9.0%、女性が3.7%で男性の方が高い
- その他と答えた人は家族との関係にストレスを感じると答えた人が多かった



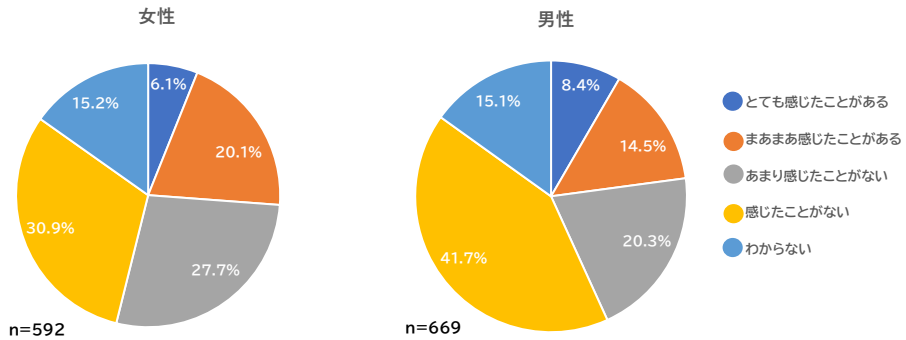
悩み事は誰に相談する？

- 男女共に学校内の友達に相談する人が多い
- 男性は母親に相談する人も多いが、女性よりも父親に相談する人が多い
- 女性は母親に相談する人が多い
- 男女共になぜ母親に相談する人が多いのか



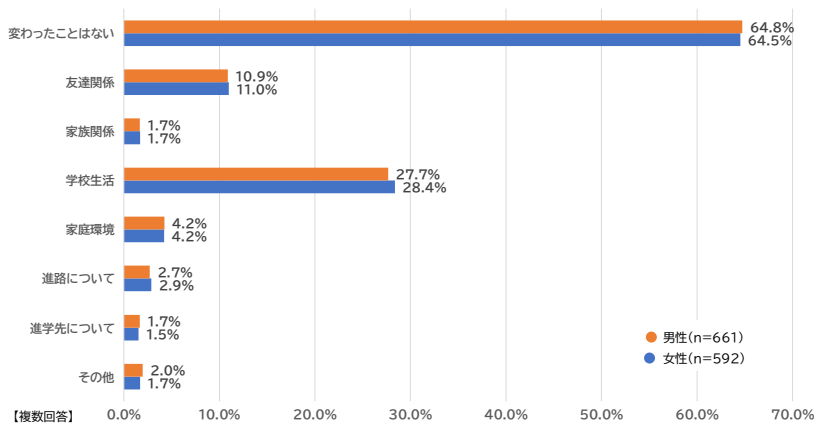
自分の性別にストレスを感じることはある？

- 男女共に自身の性別に重荷やストレスを感じた人が約4分1いる
- 自身の性別に重荷やストレスを感じてない人は性別の固定概念を当たり前と思っているのか
- 逆に一回も自身の性別に対することを言われたことがないのか



コロナ禍で変わったことはある？

- 男女ともに「変わったことはない」が約6割
- 「学校関係」や「友達関係」などすべての選択肢において男女差はなかった



まとめと今後の課題

【まとめ】

- 進路や成績のことでストレスを感じる人が多いとわかった
- 悩み事がないと答えた人は、女性が7.4%。男性が27.6%だった

【今後の課題】

- コロナ禍で学校生活や友達関係が変わったとあるが、具体的にどのように変わったのか
- メンタルをケアするのに最適な環境とは何か
- 親に相談する場合、男女ともに母親に相談する方が多いのはなぜか

チーム

C-1

テーマ

高校生の進路と ジェンダー バイアス



調査の背景と問題意識

1. 調査の背景

私達高校生は、将来を考えて、理系と文系のどちらに進むのかを決めるが、現状、理系は男子、文系は女子、という大きな偏りがみられる。なぜ、このように大きな差が出るのだろうか。

そこで、高校生が何に影響を受け、どのようなことを考えて進路を選択しているのか、そこにジェンダーバイアス*はどのように関わっているのかを調べることにした。

*性別の違いによって特定の役割や行動などに思い込みや偏見を無意識に持つこと

2. 問題意識

なぜ、理系に男子が多く、文系に女子が多いのか？

【調査の焦点】

- ・文系理系への思い込みやイメージが、進路選択に影響しているのか？
- ・そうではなくて、好きな教科で選択しているのか？

調査風景



検討するテーマを考察中



アンケート結果をもとにグラフを作成中



高校生アンケートの設問を検討中



高校生アンケート結果 1：文系理系への思い込みやイメージ

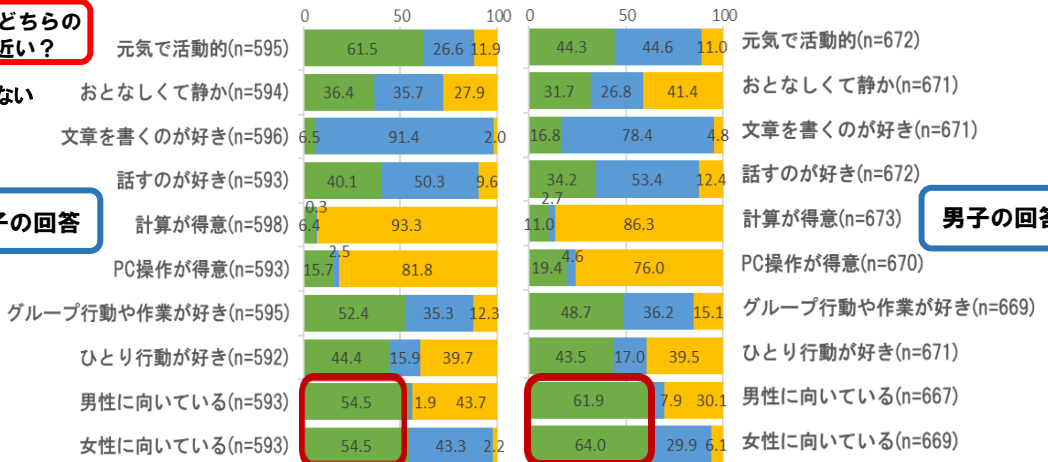
- 性格や外観からは文系、理系のイメージはつきにくい
- 性別で「文系・理系に向き不向きがある」と思っている人が割といた
- 文系理系どちらが向いているなどの先入観は女性の方が強い
- 「向き不向き」ではなく、「好き嫌い」が影響しているのではないかと

【問】文系・理系どちらのイメージに近い？

■ どちらともいえない
■ 文系
■ 理系

女子の回答

男子の回答



高校生アンケート結果2：好きな教科で選択しているのか

- 理系進学希望者は、性別を問わず小学校から現在まで、ずっと数学・理科が最も好き
- 文系進学希望者は、性別を問わず社会、英語の好きが高まる
- 男性は文系に進む場合、国語より地理歴史や公民に興味をもつことが多い
- 「向き不向き」は思い込みで「好き」「得意」が進路選択につながっている

最も好きな主要5教科の変化

		小学高学年			現在	
進 理 学 系 希 望 大 学	女子 (170名)	1位	算数	28.8%	数学	28.2%
		2位	理科	23.5%	理科	27.6%
		3位	国語	8.8%	英語	14.1%
	男子 (218名)	1位	算数	33.5%	数学	39.9%
		2位	理科	23.4%	理科	27.5%
		3位	社会	13.3%	社会系/英語	7.8%
進 文 学 系 希 望 大 学	女子 (208名)	1位	国語	24.0%	英語	28.4%
		2位	社会	19.7%	社会系	24.5%
		3位	英語	14.4%	国語	21.6%
	男子 (209名)	1位	社会	29.2%	社会系	34.8%
		2位	算数	18.6%	英語	19.9%
		3位	国語	6.2%	国語	14.9%

仮説の検証

■「文系・理系」にジェンダーバイアスを持っている人が4割程度いた。そして、その傾向は女子の方が高かった。

■その一方で、小学生時代の「好き」現在の「得意」科目が、実際の進路選択に影響を与えていることもわかった。

■理系に男性が多いからといって、「理系は男性には向いている、女性には向いていない」などと決めつけず、「自分の好き・得意」をもとに進路を検討することが大切である。

まとめ・感想

■男子がなぜ理系に多いのか、女子がなぜ文系に多いのかと疑問に思っていた。

アンケートで小学生のときの好きな教科と現在好きな教科を聞いたところ、女子は、小学生では国語が多かったが、現在は英語のほうが多いという結果がでた。

女性は海外に興味を持ったりする人が多いのかなと思った。そして、福岡では、とくに地元で就職したい男性が多いので、それも文系理系で分かれている原因であるのかなと少し思った。

■メディアや周囲の人たちから少しずつ影響を受け、進路について固定観念を抱いてきたことが分かった。

文系は女子、理系は男子というイメージは誰もが少なからず持っていると思う。しかし、本来、性別がどうであろうが人間は皆対等で、向き不向きなどは存在しない。

誰もが性別は関係なく、自由に進路や職業、自分の好きなものを決められる社会になるように考え続けたい。

チーム

C-2

テーマ

男女平等に働けているの？

高校生が調べてみた



調査の背景と問題意識

1. 調査の背景

メンバーの一人が高校の男性教師の育児休暇について話した。これがきっかけで、私たちは仕事とジェンダーの関係に興味を持ち、職場の男女比が要因かもしれないと考えた。

2. 問題意識

職場において、性別に関する問題—育児休暇の取得率などの福利厚生や、男女比率に差がある職場における働きやすさなど—の現状はどのようなものか。また、職場間での差異はあるか。

3. 仮説

職場の男女比率の差によって、ジェンダー問題への意識が異なるのではないか。

男女比率が偏っているほど、少数派が働きにくさを感じたり、ジェンダー問題に関して声を上げづらいのではないか。

調査風景



検討するテーマを考案中



社会人インタビュー①



社会人インタビューの設問を検討中



社会人インタビュー②

社会人インタビュー調査の対象①

1. 選定条件

- ① 女性が多い職業
20・30代の男女
- ② 男性が多い職業
20・30代の男女
- ③ 育休を取得した男性教諭
30代の男性

社会人インタビュー調査の対象②

2.対象者と調査日時

	①小園悠斗さん 中村睦実さん	②安居裕之さん 安居美耶子さん	③大江秀和さん
			
調査日時	(R6.9.19.18時～)	(R6.10.8.17時～)	(R6.9.19.19時～)
職業	(医)十全会 おおりん病院 看護師	鹿島建設(株)九州支店 技術職	福岡県立中間高校 教諭
年齢	30代(小園さん)、20代(中村さん)	30代の夫婦	30代
勤務年数	3年目(小園さん)、4年目(中村さん)	9年目(裕之さん)、11年目(美耶子さん)	7年目

主な質問

- ・ 現在の職業に就いた理由、勤め先を選んだ理由
- ・ 現在の職場でのワークライフバランスの満足度や困っていること
- ・ ライフイベントに応じた職場の支援に性差があるか
- ・ 産休育休の取りやすさと取得状況

考察①

- どの職種も、男女とも育休が取れる環境だが、仕事内容や役割から**女性に比べ男性は取りにくい状況にある**ことが分かった。
- 育休取得時の給料の保障など、**社会保障**がもっと充実すれば、男性の取得者が増えるのではないか。
- お茶くみ等は女性の役割だという**固定観念**が依然として残っており、男性が育休を取得するなど、女性の視点を持つことで、解消できるのではないか。

考察② ・ 今後の展望

- コミュニケーションを活発にし、**多様な意見をあげることや女性が声を上げることが**働きやすい環境づくりに繋がるのではないか。
- 男性看護師が患者から、**「男性なのになぜ看護師になったのか、なぜ医者にならなかったのか」**と聞かれるのは、正にアンコンシャス・バイアスではないか。

【今後調査したいこと】

- 男性教諭から、「育休の期間は3ヶ月が丁度良かった」と聞いた。
→女性は**男性に3ヶ月以上育休**を取ってほしいと思うか？

まとめ・感想

■予想と違って、男女ともに制度が十分に整っていた。周りの大人が親や先生だけに固まっていまいがちな高校生の時期に、多種多様な職業の方々にお話を聞くことができたのは貴重な経験だった。

■男性が多い職業では、女性が少ない分、女性が働きやすいように制度が工夫されているというインタビューの話が印象的だった。(男性が多いと男性中心で考えられてしまうと思っていた)

■昔から改善されていることもある反面、まだ女性と男性の役割が固定されていると感じた。定期的に話し合いを行って改善していく必要があると思う。

■制度が整っていたとしても仕事の状況などで育休を取ることができなかつたり期間を短くされたりまだまだ課題は残っているなと感じた。

■男女関係なく無意識に男性女性の固定観念をもってしまっているということが分かった。しかし、性別ではなくその人自身に合わせた対応や評価をしている会社も多く、時代が良い方に進んでいると感じた

■昔と比べジェンダーギャップが少なくなってきたと感じた。個人、家族の状況にあった働き方ができるようになることで離職率も減り働きやすくなると思った。

参加高校生の感想

私はこのワークショップで教育とジェンダーについて調べました。以前から気になっていた文系と理系でなぜ男女比が違うのかという疑問について様々な視点から考え、班の人と話し合うことができました。グループワークでは自分では思いつかなかったような意見もあり、参加するたびに新しい発見が見つかりました。参加した当初はグループのリーダーになったということもあり不安なことばかりでしたが、班の人に助けてもらい活動が楽しかったです。

今回初めてワークショップに参加してみて、同じようなことに興味を持つ高校生とたくさん話し合え、とても貴重な経験になりました。今まで身近に感じていたけど特に何も考えてこなかったことや、自分には全く関係ないけど社会で重要視されている問題点などについて話し合っていく中で、自分と同じ考えを持つ友達と深く話せたり、違う考えを持つ友達とも意見を交換し合い新たな考え方も持つことが出来ました。今回学んだことはこれからの人生において大切になってくることだと思うのでこの経験を活かして、これからも高校生活や大学、社会人となった時に活用出来ればいいなと思いました。

ワークショップを通して、以前より、日常のジェンダーバイアスに気付けるようになりました。例えば、私は今まで「リケジョ」という言葉が「理系イコール男性なので、理系の女性は珍しい」という思い込みを含んでいるということに気付かずにいました。このままでいたら、いつか何気なくこの言葉を使って、相手を傷つけてしまっていたかもしれません。なので、やっぱり、こういう男女差別がある、これは男女への間違ったイメージだ、と「知ること」が大切なんだと実感しました。今回学んだ事を忘れず、広い視野を持って生きていきたいです。

私は中学生の時からジェンダーについて関心があり調べていました。この高校生プロジェクトの話聞いた時は参加するしかない！と思いました。参加する前はジェンダーにまつわる資料を見たりしていましたが、今回はさらに自分でアンケートを取り調査をするという少しレベルアップしたことに挑戦しました。結果から得られた意外だったことを知ることができてとてもいい機会になったと思います。

今までジェンダーについて人と話したことがなく、はじめは緊張したけれど、同じものに興味を持って集まった同志、意見を交換し合えて楽しかったです。ワークショップを通して、ジェンダーの正しい意味と現状を知ることができました。こんな考え方もジェンダー差別に関わっていたんだ、と普段の自分の行動を振り返り驚きました。これからは自分の言動で誰かを傷つけてしまうことがないように、ここで学んだことを心に留めて行動していきます。

最初「ジェンダー」という言葉の意味すら知らなかったですが、このワークショップを通してジェンダー問題について深く知ることができ、自分が思っている以上に身近な問題であることがわかりました。またアンケートの内容の検討等、高校での総合的な探究の時間で活かせるような経験ができて良かったです。他校の高校生と関わる機会はそう多くないので、一緒に約5ヶ月間活動できたことはいい経験になりました。このワークショップで学んだことを今後生かしていきたいです。

このワークショップに参加したことでジェンダーに関してどのような問題があるのか、どのように解決していくべきなのか学ぶことができた。一つの問題に対してグループのみんなと何度も話し合ったり、アンケートの結果をもとに様々な視点から考察を導いたりするのはとても新鮮で貴重な経験になった。普段交流が少ない学校の子たちと同じ目標に向かって協力することで仲良くなることができたし達成感を得ることができた。このワークショップが終わっても私たちはジェンダー平等について考え続けるし次世代を担うものとして行動を起こしていく必要があると思った。

自分達でテーマを決めてそれに向けて計画し実際にインタビューするといった経験は絶対に学校ではできないものだから大事にしたいと思った。他の学校の生徒さんと交流して考えも深まったし新たな発見もあった。ジェンダーという大きな問題について調べてみて、今どれだけのことができていてどれだけのことができてないかが把握できた。今回このワークショップで学んだことを学校の先生や生徒会のほうで共有して少しでもジェンダー問題というテーマに関心を持ってくれたらいいなと思った。来年もこのワークショップがあったらまた参加してみたいなと思った。

ワークショップに参加する前まではジェンダーに関する知識がまったく無かったけれど回数を重ねるごとに日常にも男女の格差があることに気づきました。積極的に意見を出したり他校の生徒の意見を知ったりすることで広い視野で物事を考えることができるようになったと思います。成果報告会には大学の入試と重なっていたため参加できませんでしたが、ワークショップで経験できたことを今後の生活に活かしていきます。

私は、はじめて参加するときは、LGBTQのことなどを取り扱おうと思って参加したけどジェンダー平等はまた、違ってワークショップに参加することで自分だけではわからない資料の読み取り方や意見の交換をすることができてよかったです。また、みんなジェンダー平等などに興味や関心がある人たちなので、その人たちと話すことで自分の考えもより深まって、新しいものの見方ができるようになったので本当にワークショップに参加してよかったです。

学年・学校問わず互いに意見を出し合える環境で、ジェンダー問題に関する知識に限らず、考えを表現する力と傾聴力を身につけられたと感じます。また、ジェンダー問題は、これからの社会を担う私たちが解決を目指し、制度を改革していくべきなのだと気付かされました。これは、教授のアドバイザーからの専門的な教えやあすばるの皆さんと福岡女子大の学生さんのサポートあってこそその成果です。ありがとうございます！

私はワークショップを通して多くのものを得ることができました。まず、他校の同年代の人と探究していくこと自体が私にとって新鮮で刺激的でした。自分たちの疑問から生まれたテーマに沿って、お互いの考えの共有や話し合いを行い、スライドを作っていき、これらを通してグループワークの楽しさ、そして難しさを感じました。自分にはないアイデアや発想が興味深く、またそれぞれの考えをまとめ、スライドという視覚表現に落とし込んでいく貴重な経験になったと感じます。自己探求に加え、他者との協力、アウトプットの重要性など、自身の興味分野の知識が深まっただけでない学びまでもありました、この活動により成長した部分をこれからは活かし続けていきます。

ワークショップをこの半年間やってきましたが、今まで自分が疑問だった、ジェンダーの事について今回たくさんの方の事を調べ、たくさんの方の知識や他の人の考え方などから、自分に今まで無かった捉え方などを知ることが出来ました。僕は、理系と文系というテーマで今回調べましたが、男女に対する偏見や印象というのは、まだまだたくさんあると思います。ですが、自分たちが知り伝えて行くことによって男女に対する偏見などは無くなって行くと思います。なので、このワークショップが終わった後もしっかり考え調べて行きたいと思いました。

6月にワークショップが始まり、最初の方はジェンダーについて今まで何も知らずとしていなかった自分がしっかりと馴染むことができるか心配でしたが、いざ始まると講師の方やあすばるの方、そして一緒に活動してきた高校生に助けられ、とても多くの学びがある有意義なものになりました。特に私は実際にレスビアンの方に話を聞くことができとても学びがあるものになったと感じました。またこのようなワークショップがあったら是非参加したいです。ありがとうございました。

参加前は日頃からジェンダーの問題について疑問に思っていたけれど、友達と話す機会はあまりありませんでした。今回のワークショップでは私と同じようにジェンダー平等について興味を持っている人と話せる良い機会になりました。お互いに自分の知らない現状や取り組み方法を共有することで、さらに興味関心が高まっていきました。私は固定的性別役割分担について調べていきましたが、どの問題も解決するためには、多くの人との意見交換が大切なのではないかと考えました。この経験を活かして小さな一歩ではありますが、友達や家族とジェンダー平等について話し合ってみたいと思います！

男女での差というのは実は生活にも溢れていて、私たちは主に文理の男女の差を調べたのですが、アンケートをとると意外と差を感じていないと答えた人が多く、驚きました。しかしジェンダーの差は私たちの中にも埋め込まれていて、差別するような気持ちはなくてもついついそう感じてしまうことがある人が多いし、私もその中の1人だったんだと感じました。すぐにみんなの気持ちを変えるのは難しくても全ての人が生きやすいような社会に少しずつでも変えていけたらなと思います。

ワークショップに参加する前は薄々感じていた程度だったジェンダーギャップについて深く考え自分自身も行動、考え方を改めるところがあると気づく大きなきっかけとなりました。印象深かったのが無意識による偏見、思い込みをしてしまうアンコンシャスバイアスが、気づいていない間に身近にたくさん存在していたということです。これに通ずるのが男性と女性の育休取得率の差であり課題であると思いました。男女が対等な立場である、性別ではなく個人個人の能力で幅広く活躍できるという社会を目指す必要があると感じました。

当初、「LGBTQ」の問題について深く関心があったけど、参加していくにつれてもっと広い観点で見る「ジェンダー平等」に触れて、自分の中のジェンダー問題が広がり、周りの人にも伝えていく活動がしたいと、より積極的になりました。周りにはジェンダーの問題に関心がある人が少なく、話し合える人が居ない中、校区も全く違う高校生と意見を交わし合って仲良くなっていき、「ジェンダー平等」に対しての考えや自分の意見をより持てるようになるだけでなく、人との輪をより大切に出来る場だったと感じます。

大学の教授やあすばるの方々、インタビューに応じてくださった多くの方々のおかげで、今まで遠い世界だと思っていたジェンダー問題について学ぶことができ、わたしたちの未来に深く関連する重要な問題なのだと認識することができた。また、明確な答えが一つに定まっているわけではないジェンダー問題に対して、どのようにアプローチすればよいか悩んだが、漠然とした問題に対して焦点を絞り、答えを見つけていくプロセスを、他校の同年代の生徒との協働で学ぶことができた。

このワークショップを通してジェンダー問題を幅広い視点でみることができ、新しい知識をつけることができました。ジェンダー問題と聞いて性自認や性的指向について想像することが多かったのですが、それだけでなく男尊女卑、性別による差別など色々な分野のものがジェンダー問題だということがわかりました。最初はあまり興味を持つ人がいないと思っていたけど、実際はかなりの数が出て、たくさんの方の違った意見があり、とても良い時間だと思っています。

ジェンダー問題は最近よく耳にするようになったが、このことについて深く考える時間がなかったので、このワークショップに参加して他の高校生とともにグループワークを通してジェンダー問題についての理解を深めることができたので、とても貴重な経験になりました。これからは個人や学校でもこのような活動を継続して行い、ジェンダー問題について多くの人に知ってもらい、理解者を増やしていこうと思います。

最初、このワークショップに参加するまで、性のことに対してあまり関心がありませんでした。しかし、参加してみて実際に自分たちが調べた女子だから男子だからと言われる人や、固定的性別役割分担意識で悩む人など、さまざまな性に悩む人がいることを知ることができました。今回のワークショップで調べたことや、当事者の方と話した経験を活かして、社会に出た時に男性女性それぞれ平等に扱えるような人になりたいと思います。また、今回、性別の事情に対してどう思うのかは個人の自由だと思うが、その意見や考えを相手に押し付けてしまうことはとても良くないことだと感じました。

初めてワークショップに参加してみた結果、自分の意見とは違った意見を持っている他校の人と交流できたのでとても興味深いものになりました。また、ジェンダーに対する理解もより深まりました。

年齢や、学校の垣根を越えるといった形式のワークショップは今回が初めてで不安を感じていました。しかし参加したきっかけはそれぞれ異なるけれど、「社会をよくしたい」「誰もが住みやすい社会にしたい」という共通のゴールを持つ仲間どうし全員で協力して取り組むことができたと感じています。多角的な視点で物事をみて、問題解決に取り組むという中々味わうことのできない経験ができてよかったです。

このワークショップを私はあまり深く考えずに応募しました。最初はジェンダーがどういうものなのかや、どういう課題があるのか全く知らなかったです。でもこれを機にジェンダーに関することを学ぶようになりました。すると普通に生活していくなかでもジェンダーの課題を見つけられるようになりました。またこのワークショップで同じ班の仲間と何度も話し合っ自分の意見を共有することで自分の考えを深めたり、新しい考え方と出会うことができました。とても楽しかったです。

このジェンダー平等ワークショップに参加して、ジェンダーについての実際の状況や、改善に向かうにはどうすればいいかなどを理解することができました。近年、ジェンダーという概念は広まりつつあるけれど、まだあまりそれについてよく分かっておらず、偏見が残っていたり、逆に少しずつ改善に向かっていたりなど、様々な状況があると知ることができました。これから、性別ではなくその人自身を見るようになる社会にしていきたいと思います。

私はこのワークショップに参加する前はジェンダー問題についてだいたい知っているつもりになっていましたが、インタビューやアンケートを行うにつれて私が知っているジェンダー問題はごく一部ののだなと実感しました。昔より随分ジェンダー格差がなくなっています。しかし、まだまだ改善するべきところはたくさんあると実感したので、まずは自分の周りの人から変えていけるといいなと思います。このワークショップに参加してたくさんの驚きと発見がありました。このような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。

私はこのワークショップで活動していくうちに、無意識に偏見を持っているということに気がつきました。活動に参加する前まで、性別や職業の役割について偏見を待っていました。しかし活動を通して、正しい知識を得ることができ、偏見は絶対にしてはいけなと分かりました。報告会では「偏見を無くす」ということを伝えたいです。人を外見で判断するのではなく、人の中身が重要であるということを理解して欲しいです。



アドバイザーの先生から

6月からスタートしたワークショップでは、全4回にわたり各チームのアドバイザーとしてご指導いただきました。



Aチーム 飯島 絵理 准教授 (筑紫女学園大学 現代社会学部 現代社会学科)

ジェンダー平等に関心のある高校生が県内から集まり、6月から約5か月にわたり学んできました。参加されたみなさん、いかがでしたか？ 話し合いを重ね、アンケート調査、インタビュー調査、成果報告会の準備などに、真剣に、主体的に取り組み、テーマに対する理解を徐々に深めていくみなさんの様子を近くで見ながら、とても頼もしく感じました。

今回の経験は、みなさんそれぞれの大切な財産になったのではないかと思います。初回の「ミニ講義」でお話したように、ジェンダー平等は、広くて深いテーマです。そして、日本社会のジェンダー平等の推進は、国際的にみてもかなり遅れており、たくさんの課題があります。

「誰一人取り残さない」多様性と包摂性のある持続可能な社会づくりには、ジェンダー平等が不可欠とされています。ぜひ、これからもジェンダー平等について多くの人と学び合い、より暮らしやすい社会、生きたいと思える社会を、みなさんの世代で創っていきましょう！



Bチーム 野依 智子 教授 (福岡女子大学 国際文理学部 国際教養学科)

テーマ決めからアンケート項目の作成と結果から言えることの話合いまで、活発な意見交換ができたと思います。学校を越えて、いつもと違う人間関係の中で新たな自分を発揮できた人もいるのではないのでしょうか。また、意見交換することの楽しさを感じた人もいます。

アンケート結果から、入試での「理系の女子枠」については、文系・理系希望ともに、女子よりも男子の方が許容できないことがわかりました。また、男女ともに4分の1の人が、自分の性別にストレスを感じたことがあると回答しています。これらの結果からも、ジェンダーによる生きにくさを見取ることができるのではないのでしょうか。

今回、発表などの役割にちょっと気後れして拳手できなかった人も、何事も「場数(ばかり)＝経験」ですので、次の機会には是非挑戦してみてください。

最後に、新たな出会いと「つながり」を今後も活かして、ジェンダー平等の輪を広げていきましょう。



Cチーム 山下 永子 教授 (九州産業大学 地域共創学部 地域づくり学科)

進路選択・職業選択とジェンダーをテーマに、高校生たちと議論を重ねる中で、私自身も多くの学びを得ました。特に印象的だったのは、工業高校や農業高校の生徒たちが、一般的な「理系・文系」という二分法にとらわれない視点を持っていたことです。このことから、普通科進学校における理系・文系のクラス分けが、無意識のうちにジェンダーバイアスを生み出し、将来の進路選択に影響を与えている可能性に気づかされました。

また、インタビューを通じて、職場におけるジェンダー問題では、組織内部よりも顧客からのバイアスへの対応が課題であることも浮き彫りになりました。この点については、社会全体での意識改革の必要性を改めて実感しました。

多様な背景を持つ高校生たちとの対話を通じ、参加者それぞれが新たな気づきを得られたことは大きな収穫でした。彼らの柔軟な思考と真摯な姿勢に感銘を受け、今後の活躍及び変革への挑戦に大きな期待を寄せています。



福岡女子大学のあすばる体験学習生もサポーターとして参加



福岡女子大学体験学習 SDGs～ジェンダー平等への取り組み@あすばる

この体験学習は、福岡県男女共同参画センター「あすばる」が、福岡女子大学に提供している授業プログラムで、ジェンダーの視点を深めながら、主体的に学び行動する力を身に付けるために実施しています。今年度は、福岡県ジェンダー平等フォーラムの広報や県民企画事業に取り組み、この高校生×ジェンダー平等ワークショップにもサポーターとして参加しました。

活動内容

- ・Instagramでの情報発信
- ・フォーラムのPR動画やPRカードの制作
- ・フォーラム県民企画事業の実施



@FWU_ASUBARU

本日 15:30～ 5FセミナールームABにおいて
講演会「働くママを助けたい！～結婚出産前に考えておくこと～」
を開催します。ぜひお越しください。



高校生を対象としたアンケート結果から、男女どちらも文系は女性、理系は男性というイメージがついていることが分かった。文系、理系の性別的なイメージは主にSNS やメディア、友達を通して形成されており、それが進路選択にも影響を及ぼしていると考えられる。また、進学に関連することでは、男子は大学の女子枠についてあまり賛同できないという回答が多かったため、それらの必要性については丁寧な説明が必要だ。

各グループが行った調査の規模の大きさや、充実した考察やまとめから、グループで協力して調査を行ったことが伝わってきました。特に興味深かった調査結果は、B-1チームによる、大学入試での女子枠(理工系学部で)の設定についてのアンケート結果です。女子枠の設置に全く賛同できないと答えたのは、男性は理系大学志望が最も多いですが、女性は文系大学志望が最も多く、性別と志望大学によって女子枠に対する考え方が異なる点が面白く、着眼点も新しいと感じました。

ジェンダーというテーマについてはたくさんの課題があるとされていて、考え方も人それぞれなので、初めて会った人と限られた時間の中で調査をして、プレゼンテーションまでするのは大変だと思いましたが、それぞれが自分たちなりの結果を出しているところがすごいなと思いました。私は主にAチームにかかわらせてもらったのですが、なかなか人数がそろわない中でもいる人で作業を進めている姿が印象的でした。また、インタビューの結果を聞いて、新しい考え方も知ることができました。

高校生ならではの視点で文系理系選択など性別によって選択者の割合が変わっているものに着目し、初めは緊張からあまり進んでいないように感じましたが、回を重ねる毎に、積極的にそれぞれの意見を交換していました。理系の仕事に就いた女性へのインタビューでは、普段聞けないお話を踏み込んで質問していてとても感心しました。私たちのような世代が今後のジェンダーについて考えるきっかけを持つことの大切さを改めて感じました。

文理選択や男性の育児休暇取得状況について、アンケートやインタビューに基づいて現状について知ることができて面白かった。理系大学の女子枠導入について、理系大学進学希望の男性が反対意識を持つのは納得いくのだが、文系生徒については文系大学進学女性が最も女子枠に反対しているという結果が個人的に意外で大変興味深かった

アドバイザーの先生方のお話を聞いたり、高校生がジェンダーについて調査し考えている姿を見て、数多くの話題に触れることができました。進路決定など自らの将来も見据えた調査をしていて脱帽です。私の体験学習での目標はジェンダーについての自分の意見を持つことで、それは明確には達成できませんでしたがジェンダーというひとくくりには取まらない知識を増やすことができ、この先も時間をかけてこの問題について深く考えていきたいと思いました。

多くの高校の生徒さんが、一つの目的のもとに集まって、生き生きと話し合っている姿がとても印象的でした。私が高校生の時にもこの企画があったらよかったなと、羨ましい気持ちもあります。成果発表会で、みなさんの男女平等達成のための考えが多くの人に伝わると嬉しいです。

高校生ワークショップの調査結果の中で、私は好きな教科と進路の項目に興味を持ちました。小学校高学年の時は、女性は好きな教科が国語や英語などの言語系の教科に一定の割合がいるのに対し、男性はほんの少ししかないこと、現在最も好きな教科には、男性に少しその割合が増えていること、そして、現在の進路希望では、理系進学希望率に男女で差はないが、文系大学には差があるなど、興味深い点が多くありました。

高校生が積極的に意見を出していて素晴らしかった。模擬発表に向けて、先生が手を加えつつ絶えず意見が出ていたので積極性を感じた。当日に発表資料の調整をしていたため、間に合うのか心配ではあったが、発表自体は順調に上手くいった。また、性別に対してのアンコンシャスバイアスに関しての発表は元々興味があった内容で、現役の高校生の将来に対する意見を聞けて非常に興味深かった。

私はアンケート調査から、女子の方が文系・理系に関するジェンダーバイアスの認識を持つ割合が大きいことに少し驚いた。文系大学希望の人の現在の好きな教科を見ていくと女子は英語が1位なのに対し、男子は社会系が1位と異なっていた。法学や政治分野などにおいては男性の割合が高い一方、国際系では女子の割合が高いイメージがある。この違いにもジェンダーバイアスがあるのか、興味の対象の違いなのか少し気になった。

どのグループも積極的に意見を出し合い、調査を行っている様子が印象的でした。C-1グループの、なぜ文系に進むのは女子が多く、理系に進むのは男子が多いのかという問いに関して、女子の方が文系・理系に対してジェンダーバイアスを持っているという調査結果が興味深かったです。男子の方が数学が得意という考えは思い込みだったのだと気付かされました。高校生たちにとって、これから進路を選択していく上でも活かすことのできる調査だったと感じました。

高校生の視点から自身の身の回りで感じたジェンダー間でのギャップを言語化して問いを立てて調査をしていく活動をサポートするなかで、生活の中から”なぜ”を見つける活動は今後大学での学習や高校での勉強に生きてくる活動ではないかと感じました。授業や学習内容をただ受動的に学習するのではなく、主体的にグループ活動を進めて調査をする高校生たちの姿を見て自分自身も感化される部分がありました。

高校生ワークショップは、参加している高校生の問題意識の強さに驚くところから始まりました。私はAグループのお手伝いをさせていただきましたが、Aグループの高校生は、初回に教授から「ジェンダー問題に興味を持ったきっかけ」を質問されていました。全員がしっかりとしたきっかけを持っていて、周囲をしっかりと見て現代社会の問題を解決しようと考えている高校生を見習わなければならないと強く感じ、良い経験になりました。

成果報告会 の様子



SHELLYさんと一緒に！



令和6年度 高校生×ジェンダー平等ワークショップ 報告書

令和6年12月

福岡県男女共同参画センター「あすばる」

〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地の7
(クローバープラザ内)

TEL:092-584-1261 FAX:092-584-1262

ホームページ <http://www.asubaru.or.jp>

メールアドレス info@asubaru.or.jp

令和6年度

高校生×ジェンダー
平等ワークショップ

報告書